

『自他を認め合い、あたたかく人に関わろう』

藤枝市立岡部中学校

月別	ピア・サポート活動 ピア・サポートを中心に据えた行事	プログラム	職員研修
4月	出会いのステージ	*ピア・サポートプログラム …学期に1回、計画的に実施する	【年度始めの職員会議】 ○本校におけるピア・サポートの考え方の共通理解 ○ピア・サポート活動とは日常生活の中でこそ行すべき生徒同士の支え合い活動である。
5月	・1年生を迎える会 ・結団式 ・団別校歌学習会 ・各学年行事		
6月	高めあいのステージ	1学期…お互い仲良くなる 『コミュニケーション力を高めよう』 他者理解をすすめるエンカウンターを体験する。	○ピア・サポート活動とは日常生活の中でこそ行すべき生徒同士の支え合い活動である。 ○教師が日々の活動の中でいかにピア・サポートの視点をもたせることができるかが重要である。
7月	・3年生が1年生にテスト計画の立て方を教える ・フジバカマ植栽 ・生徒会長選挙 ・中体連志太榛原大会		
8月	支えあいのステージ	2学期…自己理解を深める 『自分を好きになろう』 自分の長所や短所を把握し、短所を長所に言い換える（リフレーミング）を体験する。	
9月	・防災訓練 ・各種ボランティア ・体育大会		
10月	・音楽中間発表会 ・生徒大会		
11月	学びあいのステージ		
12月	・音楽発表会（小6との交流） ・ふくいく発表会（小6との交流） ・学校保健委員会		
1月	はばたきのステージ	3学期…他者理解を深める 『自分も他者も大切に』 自分と他者の感じ方の違いを知り、人間関係作りを学ぶ「流れ星のワーク」を体験する。	【振り返り】 ○学活で実施したピア・サポートプログラムの内容と成果などの報告
2月	・新入生説明会（中1と小6の交流） ・生徒会本部主催レクリエーション ・ファイナルコンサート		
3月	・3年生を送る会 ・卒業式		

1 本校のピア・サポート

本校では、ピア・サポートとは行事ごとに行うような特別な活動ではなく、日々の学校生活で仲間と関わる中で、助け合いの輪を広げることが大切であると捉えている。全国学調や校内アンケートの結果から、本校の生徒には自己肯定感や自己有用感を高めたいという課題があることがわかる。そのため、生徒一人一人が、他者とのかかわりの中で自己理解を深め自分の良さを知ること、自信をもつ体験を積み重ねたいと考えた。

2 特徴的な活動

◇体育大会＜提言1・6＞

今年度は生徒の要望を反映し、「集団行動」から「集団演技」へと競技を変更し、音楽に合わせた制作ダンスを団ごとに披露した。3年生にとって大きな変化と挑戦だったが、団別練習に加え、昼休みを使って下級生に熱心に教えていた。その熱意に応えようと下級生も上手な仲間から教えてもらうなど助け合って練習に励んでいた。大会当日は、互いに声をかけ励まし合いながら競技に全力で取り組んでおり、体育大会後の手紙には、不安だった集団演技を丁寧に教えてくれた上級生への感謝が多く綴られていた。



(写真：体育大会集団演技)

◇ボランティア（ちょボラ）＜提言7・8＞

本校では、学校重点目標の一つである「貢献」の具体的な形として校内外含めてボランティア活動を推奨した。また、ボランティア活動を可視化し、賞揚するためにボランティアカードを導入した。この貢献活動を通して、生徒は地域の方から感謝され、地域の力となっていることを知ることができた。このことは生徒の自己有用感や自尊感情の醸成へとつながり、学校内のちょっとしたボランティアに参加する姿も見られた。そのような仲間の姿を見て、「私も次は参加してみたい。」「自主的に困っている人を助けたい。」という生徒も増えている。



(写真：東海道岡部宿にぎわい祭り)

◇自分を好きになろう＜提言4・5＞

11月に行ったエンカウンターでは、自分の短所を知り、それを長所として言い換える活動を行った。まずは、自分の長所や得意なことを書き出し、短所や苦手なことを書き出した。中々自分で自分を客観視してみることが難しい生徒や短所しか出てこない生徒も見られた。

しかし、困っている生徒に対して「優しいっていい長所があるじゃん」などの互いの声かけもあり、助け合う姿も見られた。活動の感想では、「自分の短所が長所になると自分の可能性を感じられた。」など自己肯定感・有用感が増している姿が見られた。

3 本年度の成果と来年度に向けて

本年度の成果としては、縦割り活動を多く設定し、学年を超えた交流が増えたことで、仲間の良さへの気づきや上級生の自覚につながったといえる。小中一貫としても、小学6年生との交流の機会をコロナ前と同程度もてたことも成果の一つである。また、職員の間でも地域に貢献しボランティア活動を推進しようという意識が高まりつつある。ボランティアにより地域へ貢献できたことは、生徒が学校内にとどまらず地域の力にもなっていることを実感できた。

課題としては、縦割りを意識した活動を増やしたが、横のつながりが薄くなってしまい、日々のピア・サポートにつながりにくかった。そのため来年度は、縦横のつながりを強め、自分を安心して表現できる環境を作ることが日々のピア・サポートの充実につながると考える。